

・いじめ問題解決の取り組み提案について

Q. いじめが後を絶たない。明日を担う子ども達が自死を選ぶなど決してあってはならない。子どもは無力で大人が支えなくては生きていくのは困難である。教師は雑務も多すぎ、子ども一人ひとりに目が行き届かない。ゆえに、見て見ぬふりをしてしまう。

そこで、六十代以上の人を再活用し、小中学校で臨時職員として働き、教員の雑務、補佐、教室巡回など、子どもを見守ることで目が行き届く。さらに教師以外の大人が学校内に存在することは、いじめ抑止力につながる。団塊の世代の豊富な知識や経験、能力を生かしてはどうでしょう。

区がいじめ問題解決の積極的な取り組みのモデルケースとなるようご一考願いたい。

A. いじめ問題解決に向けて、本区では「品川区いじめ防止対策推進条例」を制定し、学校への専門家の派遣等による支援及び相談体制の充実により、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に努めているところです。

また、教育委員会では、地域とともにある学校づくりを推進しており、各校では「まちの人々に学ぶ授業」「学習支援ボランティア」などの地域の人材を活用した取組が行われております。機会がありましたら、ご協力いただけますと幸いです。

(教育委員会事務局教育総合支援センター)